

# 千葉県言語聴覚士会ニュース

NO. 33 2010年7月25日

## 目 次

第10回総会の報告	1	臨床こぼれ話	8
会長から	2	匠の技	10
第11回 JAS 総会・学会に参加して	2	ひとくちコラム	12
学術局から	4	各委員会・作業部会から	12
施設紹介	7	事務局から	14
		理事会等報告	15

## ◇ 第10回総会が開催されました ◇

5月16日(日)に第10回千葉県言語聴覚士会総会が開催されました。会員の皆様のご協力により、議事を円滑に進めることができました。ご協力に感謝いたしますとともに、総会の概要をご報告いたします。

日時 : 平成21年5月16日(日曜日) 13時01分～13時56分

場所 : 千葉大学医学部附属病院 第3講堂

議長 : 宇野園子(流山中央病院)

副議長 : 勝又綾子(ユー・アイ久楽部)

書記 : 稲坂紀子(流山中央病院)、太田智子(松戸神経内科)

会員数及び出席者数 : 会員数308名

出席者186名(当日参加31名、議長委任155名)

### I. 報告事項

1. 平成21年度活動報告
2. 平成21年度決算報告
3. 平成21年度監査報告
4. 細則と分掌規定の変更報告

### II. 協議事項

1. 第1号議案 平成21年度活動報告の承認に関する件
2. 第2号議案 平成21年度決算報告に関する件
3. 第3号議案 平成21年度監査報告に関する件
4. 第4号議案 平成22年度活動方針案に関する件
5. 第5号議案 平成22年度予算案に関する件

以上の件が提出され、賛成多数により承認されました。

(総務部 宮下恵子)

## ◇ 会長から ◇

### ～総会を終えて～

会長 吉田浩滋

今年も会員の皆様のご協力により、第10回目となる総会を終えることが出来ました。また、その後の研修会では、貴重なご意見まで頂き、感謝しております。特に研修会でのアンケートでは、県内の歯科医師との連携を訴えるものがありましたが、これはもっともなご意見だと思い、さまざまに思いを巡らせました。毎年、総会終了後に県庁や医師会、歯科医師会を回っておりますので、そのおりに更に踏み込んだ連携を行うための方策を探っていきたいと考えております。また、県内の歯科医師からは、勉強会の講師としてSTを派遣して欲しいという要望も寄せられてきており、連携の要望が双方に広がりつつあることを実感しております。

連携といえば、本年4月30日に厚生労働省医政局より各都道府県知事宛に協働・連携によるチーム医療の推進に関する通知が出されています。これは「チーム医療の推進に関する検討会」の検討結果をうけたもので、STにかかわるものとしては喀痰等の吸引に関する記載があり、今後は医師の指示のもとで吸引を業務として行うことが多くなることが予想されております。

県士会としても、今後はさらにすすむと思われる他職種との連携に向け、研修や連携のあり方、安全確保にかかわるルールの確立等に力を注いでいく必要があります。今後、更なる情報の収集と、HPでの公表、研修会開催等を検討しておりますので、皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。

## ◇第11回日本言語聴覚士協会総会

### 日本言語聴覚学会に参加して◇

副会長 小嶋知幸

標記学会が、「言語聴覚療法の展開」というテーマで、立石雅子会長(目白大学 保健医療学部 教授)のもと、6月26日(土)・27日(日)に、大宮ソニックシティ(さいたま市)で開催されました。

両日は幸い雨には見舞われなかったものの、とても蒸し暑く、決して快適とは言えない天候でした。にもかかわらず、初日は開会30分以上前から会場入り口には行列ができており、毎年のことながら、本学会への参加者の熱気が伝わってまいりました。参加人数も約1500名とのことで、昨年同様の活況を呈していました。

発表会場は、今回なんと10会場(口頭発表・シンポジウムなど5会場、ポスター発表5群)で、全体を網羅することは、初めからあきらめざるを得ない状況でした。また、今回私は、初日の午後、他の研究



会に参加しなくてはならない事情があるなど、部分的な参加を余儀なくされたのですが、参加できた範囲でレポートさせて頂きたいと思います。

今回は、ある意味で昨年の内容と対照的であったように思われました。昨年は、「広範性発達障害の神経基盤」「言語機能回復の生理学的メカニズム」など、STがかかわる諸領域についての脳科学的知見を多く学ぶことのできた会だったと記憶しています。しかし、今回特徴的であったのは、大学全入時代におけるST教育のあり方、臨床実習のあり方、といったシンポジウムが中核をなしていた点で、立石会長が「これからのST教育はどうあるべきか」といったテーマに大きな関心を寄せておられることが窺われました。

ところで、2010年4月現在、ST養成校は63校、在校生は2606名とのことです。そして、現在、有資格者は17,506名で、国の政策としては、およそ30,000名まで充足させる必要があると考えているとのことです。このように「量」という点ではまさに右肩上がりの活況を呈しているこの職域において、喫緊の要事となっているのが、言うまでもなく「質」の維持・向上です。具体的には養成校における教育カリキュラムの改革(コア・カリキュラムの導入)と、臨床実習環境の充実です。当県士会会員諸氏におかれましても、県内の言語聴覚障がい児者の方々が、あまねく良質なサービスを受けることができるように、これかれ生まれてくるSTの卵への支援は、決して「他人事」ではないと思います。養成校の臨床実習に対してどのようなスタンスで協力していけばよいのか、県士会でも検討を行なう必要があるのではないか、と感じた次第です。

その他、「特別支援教育における言語聴覚士の役割」というシンポジウムも、大変興味深いものでした。シンポジストの一人は当県士会会員でもある渡邊裕貴先生で、印西市における、乳幼児期からの一貫した支援体制を目指した取り組みについてお話し下さいました。教育現場でご活躍の会員の比率の多い当県士会の会員諸氏にとって、非常に意義深いシンポジウムであったことと思われました(私は他会場で座長の役割があったため、途中での中座を余儀なくされました)。

その他、「医療における言語聴覚士の展開—かかりつけ言語聴覚士の浸透をめざして—」というシンポジウムについて、私個人としては「かかりつけ言語聴覚士」という表現に非常に興味を持って聞かせていただいたのですが、すべて医師からの提言であり、ST自身からの情報発信がなかった点が少々残念でありました。

次に、5群で並行して進行したポスター演題について。一部を拝見しただけですが、特に、摂食・嚥下、NST、口腔ケアといった領域において、多くのSTが、病棟あるいは施設内で多職種間でのチーム連携のマネジメントに奮闘している様子を見て取ることができ、大変頼もしく思いました。

最後に、欲を言えばきりがありませんが、一参加者の立場から感想を述べさせていただくと、学会の重要なコンセプトであるシンポジウムが行なわれている時間帯の裏には一般演題を配置しないなど、プログラムの配置にもうひと工夫していただければありがたかったという思いが残りました。また、ポスター演題も、喧騒の中、じっくり聞き取ることができず、せっかくの労作の印象が薄まってしまっていたことも残念でした。

しかし、裏を返せば、それだけ本学会への参加者が爆発的に増えていることの証しとも言えるわけで、これらの注文は「ないものねだり」と言うべきかもしれません。

鬱陶しい季節のさなかに、爽やかな刺激を頂いた2日間でした。

## ◇ 学術局から ◇

学術局 木下垂紀 平澤美枝子

### 1. 平成22年度第2回研修会のお知らせ

高次脳機能障害、聴覚障害をテーマにした講演会を行います。日々の臨床にお役立っていただきたい思いから、当会の高次脳機能障害委員会、聴覚障害委員会が企画を行い、講演いたします。お誘い合わせの上、ご参加ください。会員の皆様はもちろん、会員外の方へもお誘いあわせの上、ご参加ください。

\*日時：平成22年9月12日（日） 13時00分～16時40分

\*会場：千葉市療育センター3階体育室

\*内容

13:00～15:00

「認知ドリルの有効な使い方について」

当会高次脳機能障害委員会企画

\*「認知機能（高次脳機能）について」

\*症例提示

\*シンポジウム：参加者の皆様とご意見を交換します。

15:10～16:40

聴覚障害を知る 中級編

－検査結果の見方と補聴器の管理、装用指導について－

当会聴覚障害委員会企画

\*難聴発見から補聴器装用、療育までの一連の流れ（小児）

\*検査結果の見方について（成人・小児）

\*補聴器のメンテナンスについて（成人・小児）

\* 申し込み方法：詳しくは同封の申込書をご覧ください。

### 2. 第1回研修会報告

平成22年5月16日（日）に千葉大学医学部附属病院で第1回研修会を開催しました。「摂食・嚥下障害」をテーマに、日本歯科大学附属病院 西脇 恵子先生、在宅総合ケアセンター元浅草 たいとう診療所 山口 勝也先生を講師にお迎えし、「歯科医と連携して行う摂食・嚥下障害への対応」をご講演していただきました。参加者は100名でした。研修会の概要と、アンケート結果の一部を紹介します。

#### 研修会の概要

演題名：「歯科医と連携して行う摂食・嚥下障害への対応」

講師：日本歯科大学附属病院 言語聴覚士 西脇 恵子先生

在宅総合ケアセンター元浅草 たいとう診療所 言語聴覚士 山口 勝也先生

西脇恵子先生からは、歯科で働くSTの役割や連携についてご講演をいただきました。

山口勝也先生からは、地域の歯科医との連携について、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションの立場からご講演をいただきました。

西脇先生からは、歯科医師一人に対してSTは0.17人と少なく、歯科領域で働くSTは10数人とごく少数であるとのことでした。歯科領域でSTと関連が深い業務として、補綴装置の作成があり、様々な装置についてご説明いただきました。顔面補綴、顎補綴、口蓋補綴、鼻咽腔部補綴、舌補綴についてスライドで仕組みや目的をお示しいただきました。補綴装置の作成に当たっては、STによる摂食・嚥下障害や構音障害の評価が必要であり、STが情報を伝え、連携することが必要であることのお話がありました。

山口先生からは、ご勤務の通所リハ・訪問リハの対象者に対する実態調査を基に、摂食・嚥下評価や口腔ケアのニーズがあることをご報告いただきました。在宅リハビリテーションサービスにおいては、それぞれの職種が別々の事業所に所属しており、地域の実情にあった形での連携（例えば、勉強会等）が必要で、コーディネーター役として行動することも必要であることのお話がありました。

質疑応答では、他職種についてよく知ること、STの能力が発揮できる場所を見つけること、それを積極的に発信し協業することが大切であるとのことでした。STの対象者の方々が抱える問題は、STのみで解決できることは限られますが、他の専門職に情報を伝えることで解決に向かうことは多くあります。しかし、何をどのように伝えたらよいか迷うこともある中、今回は他職種を知る手がかりとなるご講演でした。

## アンケート結果

### ●研修会に参加して

とてもよかった 42名、普通 12名、期待していた内容と異なった 2名

回答なし 1名

(具体的内容)

- ・私が働いている病院には歯科、口腔外科があり、年に10例程度ですが、舌癌、下顎癌など頭頸部癌術後の患者さんの摂食嚥下、構音に対してリハビリを行っています。医師から補綴的装置を作ってという運びになる方は今までいなかったのですが今後は相談し必要であれば導入できるか医者とともに検討しようと思いました。
- ・STと歯科関係の連携がもっと密になれば機能訓練を行ううえでもっともっと良い方向に向かうのではないかと考えていましたが、今日の講演でも連携の必要性を話されていたので、これからどんどん一緒に仕事ができるようになればと願っています。

### ●今後の研修会やこの会の活動について、ご意見等がありましたらお書きください。

- ・吸引
- ・摂食嚥下、口腔ケア実技、栄養士との連携
- ・職業リハ
- ・神経疾患へのアプローチ

- ・歯科衛生士にも「千葉県歯科衛生士会」という団体があるので、今回のような研修会の際は是非声をかけてほしい。

#### **学術局より**＜研修会を終えて＞

多くの皆様にご参加いただき、摂食・嚥下への関心の高さを再認識いたしました。また、今春からSTが吸引できるようになり、勉強会開催の要望がアンケートから多く見られました。皆様からのご要望を研修会の運営に生かしてまいります。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。皆様の臨床の一助になれますようお願いしております。

#### **[研修会の症例発表者募集]**

次年度の研修会での症例発表者を募集します。日頃の臨床で悩んでいる症例などありましたら、ぜひ発表してください。皆様の積極的な提案をお待ちしています。申し込みや問い合わせはホームページでお知らせください。

### **4. 研修会ビデオの貸し出しと資料の送付**

#### **1) ビデオの貸し出し**

これまでに実施した研修会のビデオ、DVDを貸し出しています。下記の要領でお申し込み下さい。  
方 法：返信用封筒（B5またはA4サイズ）に住所、氏名を書き、切手（ビデオ1本270円分、2本390円分）を貼り、下記宛にお送りください。

宛 先：〒263-0023 千葉市稲毛区緑町2-1-9 103号室  
千葉県言語聴覚士会事務所

貸し出しビデオ、DVD：対象となる研修会の詳細は、県士会ホームページからお問い合わせください。

貸出期間：1ヶ月

#### **\*貸し出しについての注意\***

ビデオ、DVDの販売はしません。ダビングは禁止です。ビデオ、DVDを紛失、破損した場合はご連絡ください。ビデオテープ、DVDの代金を弁償していただきます。

#### **2) 資料の送付**

希望者に研修会資料を配布しています。返信用封筒（A4サイズ）に住所、氏名を書き、切手（200円分）を貼りお送りください。宛先はビデオ貸し出しと同様です。

対象となる研修会についての詳細は、県士会ホームページをご覧ください。

### **5. 「地域の勉強会」での症例検討会に参加しませんか？**

会員の皆様のご協力により、各地域で勉強会が開催されています。ホームページの「小児多職種合同勉強会」、「地域勉強会」をご参照の上ご参加ください。

小児の分野では、立場が違っても共通の子どもたちの成長に携わっていても、なかなかお互いにコミュニケーションがとれないという声がたくさん寄せられていました。そこで「小児多職種合同勉強会」を県内5地域に発足させ、さらに発展させようとしています。ご活用ください

## 施設紹介

### 医療法人社団紫雲会 千葉南病院・・・・・・・・・・・・・S T 坂口 綾香

千葉南病院はJ R外房線の誉田駅を最寄り駅とし、平成元年4月に開設されました。ベッド数は、2階回復期病棟29床、3階一般病棟58床、4階療養病棟52床、計139床の地域密着型の病院です。現在リハビリテーション科のスタッフは、PT17名、OT12名、ST4名であり、急性期から回復期、療養、そして訪問リハビリまで幅広く携わっております。

STが担当する疾患は主に成人の脳血管障害であり、失語症を含む高次脳機能障害、構音障害、嚥下障害者のリハビリを中心に行なっています。当院の回復期を退院後に、外来でのリハビリや訪問リハビリを希望される方もおり、社会生活に戻られてからも継続的な支援が出来ることを目指しております。

当院は、平成21年1月に回復期リハビリテーション病棟が認可されました。この病棟ではモーニングケアやイブニングケアを実施しており、STもケア場面に介入することで朝食や夕食の様子を観察することが出来ております。リハビリ以外の生活場面の様子をうかがうことが出来、より日常生活に密着した訓練ができるように工夫しております。

リハビリテーション科では、スタッフルームはPT、OT、STが共有しており、職種の領域を超えて相談しやすい雰囲気があります。その為、多職種と連携も多くとれ、月に1度実施している定期カンファレンス以外でも密に患者様の情報交換が出来ております。今後も、多職種がチームアプローチを強化して患者様に最適なリハビリが提供できるように努力したいと考えております。

〒266-0003 千葉市緑区高田町401-5 TEL: 043-292-5111

### 千葉脳神経外科病院 リハビリテーション科・・・・・・・・・・・・・S T 石田 理恵

当院は、1986年に脳卒中を中心とした脳疾患専門病院として設立されました。病床数は99床で、脳神経外科単科の病院です。リハビリテーションスタッフは、PT5名、OT3名、ST2名です。医師からのリハビリ依頼は早く、急性期の非常に早い段階から介入が始まります。

STは、失語症、構音障害、嚥下障害のある全ての患者様の評価・訓練の処方をいただきます。特に、摂食・嚥下機能の評価や訓練は早期より開始し、誤嚥性肺炎の予防に努めています。また、毎週行われるNSTによる栄養管理にも参加しています。

毎週火曜日、木曜日は病棟カンファレンスが行われ、全ての患者様の治療方針、退院先、今後の予定などを、医師、看護師、MSW、管理栄養士、リハビリテーションスタッフで話し合います。院内勉強会や研修も盛んで、毎週なんらかの勉強会が開催されています。リハビリテーション科では、一ヶ月に一度の症例検討会、BLS研修をしています。当院の平均在院日数(2009年)は13.4日と非常に短く、その限られた短い日数のなかで、より良い治療、訓練、指導、家族へのサポートなど行えるよう、リハビリテーション科一同で努力しています。

〒263-0001 千葉市稲毛区長沼原町408 TEL: 043-250-1228 (代表)

## 臨床こぼれ話

### === STとして臨床を始めた頃 ===

株式会社エスコアール  
代表取締役 鈴木弘二

今から37年前の昭和48年(1973年)4月、私は千葉県身体障害者更生相談所(現:千葉県障害者相談センター)に就職しました。国立聴力言語障害センター附属聴能言語専門職員養成所というとても長い名称の養成校を卒業したものの、臨床経験はなく何もわからないままの就職でした。当時、千葉県内の福祉・医療の領域へSTが採用されたのは初めてでした。私の採用は、とりあえず専門家を確保して将来言語障害部門を確立させていくための採用でした。

当然ですが、最初は言語障害の検査や訓練に必要な器具・教材などは何一つない状態でのスタートとなりました。私が最初に手がけたことは、言語障害者の相談や検査・訓練などを行える環境作り(教材作り等)と、関係機関へのあいさつ回りでした。

職場は成人の身体障害者のための施設でしたが、私の希望を採用していただき、幼児から成人までを対象として準備を進めました。幸い職場の人たちの協力が得られ、一部屋を私の専用の部屋にいただき、訓練室の備品類に関しても、幼児用の遊具などは子どもさんのいる職員から不要になったおもちゃなどを提供していただきました。最初の1か月間位は、手作りの教材を作ることが毎日の日課となりました。例えば、新聞の折り込み広告から「りんご」や「車」等、訓練に活用できそうな写真やイラストを切り抜き厚紙に貼って絵カードを作ること大切な仕事の一つでした。

この時期にあいさつ回りをした機関のひとつに千葉県特殊教育センターがありました。千葉県はことばの教室の発祥の地であり、その開拓者である大熊喜代松先生がセンターにいらっしゃって、長い時間歓談させていただきました。その時一緒にお会いした先生の一人に、千葉県のことばの教室の発展に大きな貢献をされた小久保正大先生がいらっしゃいました。小久保先生とは機会がある度に交流させていただき、先生が定年退職された後もいろいろ教えていただきました。

この特殊教育センターの訪問がきっかけで、千葉市内の院内小学校ことばの教室へもあいさつに伺いました。その後の30年程の臨床の中で、県内のことばの教室の先生方とは、いろいろな意味で長いつきあいをさせていただきました。

当初の臨床は、児童相談所からの紹介による幼児の言語障害や成人の聴力検査が主でした。この1年位の間に検査・訓練の対象児者は徐々に増加し、聴覚・言語障害の種類も様々に広がりました。養成所で勉強はしてきても、私は臨床経験がなく、周囲に相談する人もいない中で手探りの臨床が続きました。幸い養成所の先生方や先輩・同期生との交流が頻繁にあったため、そこからの情報で学ぶことがたくさんありました。

多くの臨床を経て、医療現場のSTとして、東京歯科大学で担当していた口蓋裂児への臨床が最後となりました。

この臨床を始めた当時を振り返ってみると、口蓋裂児に構音検査をして、開鼻声や声門破裂音について不十分ならわかったものの、今で言う側音化構音は「イ列音の歪み」、口蓋化構音では「タ行音の歪み」という程度の理解でした。今でこそ異常構音の診断や訓練方法が確立していますが、当時は、異常構音の発生機序や診断については知らないことばかりで、体系だった構音訓練方法はわかりませんでした。今考えると当時はがむしゃらに臨床をしてきたものの適切な評価・訓練にはほど遠い状態でした。

私が臨床を始めてから約10年後に「口蓋裂の言語治療」(医学書院)が出版され、その著者の4人の先生方を中心に密度の濃い講習会が開催されました。この講習会に参加してやっと体系立った異常構音の診断・治療方法を学ぶことができました。その後、著者の先生に千葉県へ何回も講師としてお出でいただき口蓋裂の講習会を開催してきました。これらのことを通して私の口蓋裂児への臨床は大きく変わっていきました。

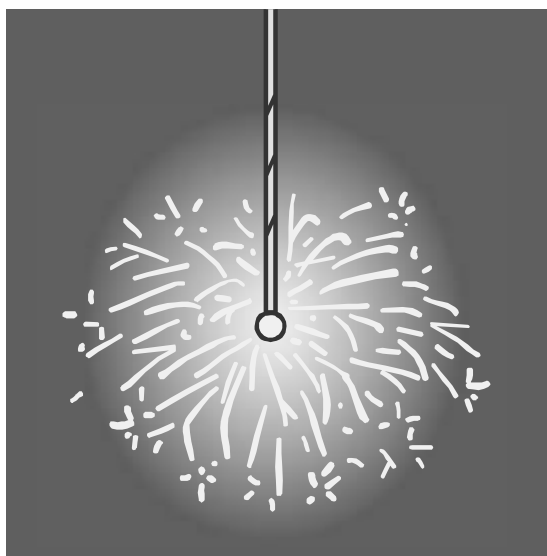
この口蓋裂児の異常構音への対応に見られるように私のSTとしての最初の頃の臨床は未熟な限りでしたが、障がいのある方々の立場に立つことを常に心がけてきたつもりです。私は、現在STとしての臨床からは離れておりますが、全国失語症友の会連合会の失語症者やご家族の方々と頻繁に交流させていただいております。全国失語症友の会連合会の自称応援団のつもりです。

千葉県士会に集まる若いSTの皆さんへ、STをリタイヤした私からのお願いです。

STの臨床の間では、新卒直後のSTであっても患者さんやご家族から「〇〇先生」と呼ばれ、最後は「ありがとうございました」と言って帰られます。一般社会では、お金をもらう側(STの側)が「ありがとうございました」と言うのが普通ですが、医療の間では逆転しています。

日本言語聴覚士協会の倫理綱領草案の序文に「…言語聴覚士は…人類愛の精神のもと、全ての人々に奉仕する」と書かれています。

STとしての長い臨床の間では様々な紆余曲折があると思いますが、いつのときにも倫理綱領草案にあるように、患者さんに「奉仕する」気持ちを忘れないでいただきたいと思います。



## 匠の技

私たち ST にとって、患者さんあるいは、そのご家族との面接はとても重要な位置づけにあります。しかし、面接法については、専門的な勉強をする機会が少ないため、面接場面では試行錯誤の連続、冷や汗をかいたご経験のある方もいらっしゃるのではないのでしょうか？面接は、患者さんやご家族と信頼関係を結ぶ大きな役割があります。今回は、カウンセラーの先生から面接法のコツをお教えいただきます。

### より良いコミュニケーションをはかるためのコツ

スクールカウンセリング Well-Being 小林晶子

#### 【はじめに】

こんにちは。スクールカウンセリング Well-Being の小林晶子と申します。現在、高校で非常勤のスクールカウンセラーとして仕事をしながら、自宅でカウンセリングルームを開業しています。カウンセラーとして仕事をする前は、高校の保健室で養護教諭として14年間、生徒や親御さんと接してきました。

言語聴覚士というお仕事は、カウンセラーと同じく“人間相手”のマニュアル通りにいかない繊細なお仕事ですので、日々感じるストレスもとても大きいのではないのでしょうか。障害を抱え、リハビリを必要としているご本人だけでなく、その方を取り巻くご家族ともコミュニケーションをとらなければならないというお立場は、ご苦労が絶えないことと思います。

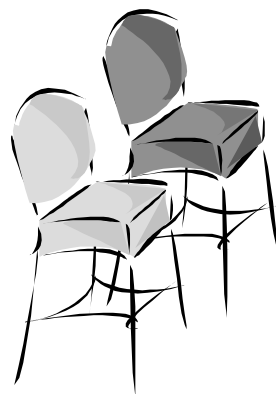
今回は、そんな皆さんの日々のお仕事に少しでもお役立てられるように、カウンセラーとしての立場から、より良いコミュニケーションをはかるためのコツ（考え方）についてお話ししたいと思います。

#### とにかく、まずはしっかり『聴く』こと

『聴く』という言葉には、何気なく入ってくる言葉や音を耳に入れる『聞く』ではなく、「注意して気持ちを傾けて耳にとめる」意味が込められています。

皆さんの周りの“聴き上手”な方を思い浮かべてみてください。“聴き上手”な方は、しっかり相づちを打ち、話を途中で遮ったり否定したりせず最後まで聴いてくれているはずです。そして何より、嬉しい・楽しい・苦しい・つらいといった“気持ち（感情）”をくみ取って、「そうなんだね」と返してくれます。

人は、自分の悩みやつらい気持ちを、ただ聴いてもらうだけでも気分が少し楽になってしまうものですね。悩みを話したからと言ってその解決策が見いだせなくても、つらい状況が改善されるわけではなくても、「聴いてもらえた（受けとめてもらえた）」という感覚が安心感につながり、明日への前向きな活力の種になるのです。



障害を抱えた方はもちろんのこと、そのご家族にも、つらく苦しい思いはあることでしょう。そういった思いを相談されたり打ち明けられたときは、相手の方のそれまでの人生の歴史に敬意の気持ちを持って、“聴き上手”な方のテクニックを真似て、とにかくまずはしっかりと腰を据えて『聴く』姿勢を、大切にしてください。

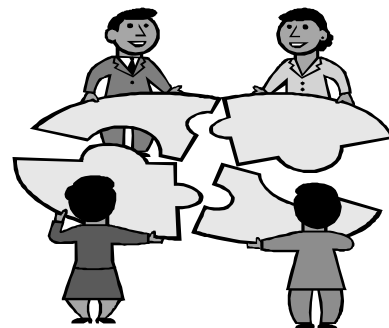
### 自分の意見や考えを相手に伝えるときは…（～『アサーション』という考え方～）

言語聴覚士という専門職としての立場から、障害を抱える方やそのご家族に生活上のアドバイスや指導をしているとき、「でも…」とか「それはできないと思います」というように、なかなか納得（同意）しない方っていませんか？こちらが相手にとってベスト（あるいはベター）だと思いを提案しているのに、相手がなかなかその提案に納得しないのはなぜだと思いますか？こんなケースに陥ってしまったときは、ちょっと自分自身の内面を見つめてみましょう。

「“自分＝上、相手＝下”のような（横柄な）構えになっていないかな？」

逆に、「“自分＝下、相手＝上”のような（自信のない、相手を不安にさせる）構えになっていないかな？」あるいは、「“自分＝下、相手＝下”のような（自分や相手に対してネガティブな）構えになっていないかな？」

自分と相手に上下の構図のない、人間として対等な構え（関係）を意識して、そこに専門職としてのスキルをプラスαのエッセンスとして盛り込む、これが一方通行ではない、双方向のコミュニケーションにつながります。「こうしてください、ああしてください」という表現が、この構えをとることで、「こうしてほしいのですが、いかがですか？」というような、相手の意見や思いを“待つ”態度に変化していきます。そうすると相手も、「先生のご指導はもっともなのですが、我が家の実情は〇〇で、それが難しいのです。△△ならばできると思うのですが…」というように、「でも…」の中身を率直に伝えてくれるようになります。そこまで関係ができてしまえば、あとは言語聴覚士としてのスキルをフル活用して、そのご家庭の実情に合った方法を再アセスメントして、提案し直していけばいいわけですね。



この考え方は、对患者&家族に限らず、対同僚にも大いに役立ちます。

例えばカンファでは、専門職として、患者の治療方針や家族への指導事項等について意見を交わすことになるとと思いますが、言語聴覚士とはいえ、人間です。ときには意見の違いで衝突することもあるでしょう。そういうときも、自分の意見と同じように相手の意見も大切にして、相手の意見の中に、自分にとって「なるほどな」と思えるような新たな発見や、歩み寄れる妥協点を見いだそうと努力してみましよう。意見の違いが“当たり前”、そして、両者とも“患者やご家族のため”に話し合っているのだと思えば、腹も立ちませんよね。

自分も相手も大切にする自己表現のことを、『アサーション』と言いますが、皆さんもアサーティブな自己表現を心がけて、キャッチボールのできるコミュニケーションを目指してみてくださいね。

スクールカウンセリング Well-Being

Tel/Fax 0439-29-7188

E-Mail well\_being72@yahoo.co.jp

## 三三三 きこえに関するひとくちコラム 三三三

・・・聴覚障害委員会・・・

第2回は小児の聴覚障害の発見についてお伝えします。ことばの遅れや発音不明瞭が主訴の場合でも、必ずきこえについてのチェックをしましょう！

### ～お子さんの聴覚障害を見逃さないために～

保護者からのきこえについての情報や、臨床場面での音・音声への反応から、きこえにくさがあるかを総合的に判断します。小さな音・声への反応を確認することで、軽度難聴も見逃さないようにしましょう。聴覚障害の疑いがある場合には、聴力検査及び耳鼻科受診を勧めます。情報聴取・観察のポイントは以下の通りです。

- ★日常生活音への反応：玄関のカギを開ける音（居間で気づき玄関に行く）・携帯電話の着信音（かばんの中で鳴っても気づく）・テレビの主題歌（隣の部屋から来る）等
- ★難聴の危険因子：家族歴、低出生体重児、新生児仮死、重症呼吸障害等の有無
- ★臨床場面：オルゴール、楽器、歌、ささやき声（囁語検査）等への反応（きこえると振り向く、動きが止まる、笑顔になるなど。きこえにくいお子さんは、音源に耳を近づけたり、耳元で鳴らしたりする。）



## ◇ 各委員会・作業部会から ◇

### ◎◎◎リハビリテーション公開講座作業部会◎◎◎

#### 第4回 リハビリテーション公開講座のお知らせ

（社）千葉県理学療法士会・（社）千葉県作業療法士会・千葉県言語聴覚士会、千葉県リハ医学懇話会主催「第4回リハビリテーション公開講座」を開催いたします。

今回の講座では、「疾患や障害の予防」をテーマに、県民の皆様の心身の健康維持に役立つ内容を紹介いたします。本人・家族向けの各専門職による個別の相談会、リハビリテーション機器等の展示も設けます。お問い合わせの上、是非ご参加ください。

日時 平成22年10月30日（土） 13:00～16:30

会場 千葉市美浜文化ホール（JR京葉線 検見川浜駅 徒歩8分）

参加費 **無料**

内容

#### ●基調講演

『脳卒中の予防』 千葉県救急医療センター 古口 徳雄先生

『運動器疾患の予防』 千葉県千葉リハビリテーションセンター センター長 吉永 勝訓先生

#### ●講演

『介護予防における取り組み』千葉県理学療法士会代表 さかいりハ訪問看護ステーション船橋

小川 将史

『認知症の予防』千葉県作業療法士会代表 ロザリオ高齢者支援センター 井上 創

『嚥下・口腔機能の低下を防ぐために』千葉県言語聴覚士会代表 (株)シダー 南木 香名芽

『行政の理学療法士が取り組む予防活動について』千葉県理学療法士会 八千代市健康福祉部

安達 さくら

(羽場 依子)

## ◎◎◎設立10周年記念事業作業部会◎◎◎

### 千葉県言語聴覚士会 設立10周年記念事業のお知らせ

千葉県言語聴覚士会は、平成23年6月10日をもって、設立10周年を迎えることとなりました。それに先立ち下記の通り、記念式典と記念県民公開講演会を開催致します。記念式典では、千葉大学附属特別支援学校の子どもたちによる太鼓演奏や県士会10年間の歩み紹介、失語症になられたジャズサックス奏者によるミニコンサートを計画しております。また記念県民公開講演会では平成15年に医療功労賞を受賞された横張琴子先生より、失語症や高次脳機能障害で苦しまれる方々が言語訓練を通して元気な生活を取り戻されていく様子をご紹介頂こうと考えております。ぜひ、多くの会員のみなさまにもご参加頂き、千葉県言語聴覚士会10年間の歩みをともに祝いましょう！！

**日時** 平成22年11月7日(日) 13時～17時(12時開場)

**会場** 千葉市民会館 小ホール

**内容** 13:00～14:10 設立10周年記念式典

オープニング演奏 会長挨拶 来賓祝辞 県士会10年間の歩み

失語症者によるミニジャズコンサート

14:30～16:45 記念県民公開講演会

「さまざまな脳の障害と、その回復への道のり～失語症・失行・失認を中心に～」

**講師** 横張 琴子 先生 失語症デイサービス「ミカタ」言語聴覚士

16:30～17:00 個別相談会

※すべての事業には情報保障として要約筆記及び失語症者のためのポイント筆記あり

**参加人数** 300名(参加費:無料)

**申し込み方法** 同封の申し込み用紙に必要事項を記入し、11月5日(金)までに郵送・電子メール・FAXでお申し込み下さい(電話申し込みは不可)。

**申し込み先(問い合わせ先)** 〒292-8535 木更津市桜井1010番地

君津中央病院リハビリテーション科 言語聴覚室

FAX: 0438-36-3867 電子メール: [setsuritsu10@hotmail.co.jp](mailto:setsuritsu10@hotmail.co.jp)

(村西 幸代)

## ◎◎◎生涯学習プログラム基礎講座・専門講座作業部会◎◎◎

日本言語聴覚士協会、生涯学習プログラム基礎講座・専門講座の千葉県版を実施

今年度は、専門講座を2講座に増やし、基礎講座全ての6講座と独自の講座を合わせて9講座を2日間で実施いたします。

専門講座は森田秋子先生<回復期リハビリテーション病棟における言語聴覚士の役割>と小西 行郎先生<赤ちゃんの脳科学>を午前と午後に分けていたします。ポイント申請をなさらない方でも歓迎です。

日 時 : 平成22年11月21日(日曜) ・ 12月5日(日曜)

会 場 : 千葉市民会館

詳しくは同封の案内状をご覧ください。多くの皆様の参加をお待ちしています。

(塘 まゆり)

## ◇ 事務局から ◇

### 1. 入会のお誘い

当会に入会されていない方は、ぜひご入会くださるようお願い申し上げます。入会ご希望の方は、ホームページにても入会方法をご案内申し上げますのでご覧ください。また、お近くに未入会の言語聴覚士の方がいらしたら、入会をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

### 2. 住所・勤務先変更届けについてのお願い

住所や勤務先など、入会時にされた登録内容に変更があるときは、お手数ですがなるべく速やかに、事務局まで郵便またはFAXにてご報告くださいますようお願いいたします。変更届は会のホームページよりダウンロードすることもできます。会よりの郵便物がお手元に届くのが遅れるなど不都合がございますので、ご協力お願いいたします。

### 3. リーフレットの配布

千葉県言語聴覚士会のリーフレットを所属施設に置きたい、研修会などで配布したい等のご希望がありましたら、必要部数と連絡先を明記し、事務局までお申し込みください。追ってご連絡いたします。また県士会ホームページにも掲載されていますので、ご覧ください。

### 4. 新入会員のお知らせ (敬称略)

会員数: 正会員 319 名・会友 23 名・賛助会員: 5 団体

(平成22年6月13日 理事会承認分まで)

・・・正会員・・・

大内 明日可(鎌ヶ谷総合病院)

竜崎 仁志(東京臨海病院)

荒木 淳子(新八千代病院)

松本 亮介(船橋市立リハビリテーション病院)

小林 加奈(船橋市立リハビリテーション病院)

進藤 さやか(船橋市立リハビリテーション病院)

中山 真理(都立よつぎ療育園)

速水 愛(亀田総合病院)

青葉 奈津(木更津市幼児言語教室)

小手 恵(山之内病院)

宮坂 美穂(八千代リハビリテーション病院)

阿部 寛子(千葉中央メディカルセンター)

室井 美紀(千葉中央メディカルセンター)

高橋 育美(鎌ヶ谷総合病院)

松井 理恵(山之内病院)

圓谷 奈津子(介護老人保健施設 東京おりーぶ苑)

佐々木 絢子(船橋市立リハビリテーション病院)

大壺 歩実(小張総合病院)

## ◇ 理事会・委員会等報告 ◇

### ◆ 平成22年度 理事会

《第3回》

日時：2010年5月16日(日) 11時00分～12時11分 場所：千葉大学附属病院 第3講堂

出席者：木下、小嶋、相楽、斉藤、平澤、古川、宮下、吉田(以上理事7名)、岩本(監事)、五十嵐(書記)

1. 協議事項：(1) 事務局より ・理事会および局等の議事録承認について ・新入会員・変更者の承認について ・総会議案書について ・袖ヶ浦市からの依頼について ・10周年記念行事について ・高次脳機能障害委員会より ・平成23年度 第5回リハビリテーション公開講座について

2. 報告事項：・脳卒中リハビリテーション協議会委員の選任について ・実態調査の進捗状況について ・岡山県言語聴覚士協会からの依頼について ・介護保険委員会より

### ◆ 平成22年度 学術局

《第1回》

日時：2010年5月16日(日) 17時45分～18時20分 出席者：平澤、木下、中村、藤田、酒井、田中、建石(以上7名)

・第1回研修会反省 ・平成22年度年間研修会計画の確認 ・第2回研修会案内状の確認

### ◆ 平成22年度 聴覚障害委員会

《第1回》

日時：2010年4月11日(日) 10時00分～12時00分 出席者：佐藤、高橋、常田、黒谷、宮下(以上5名)

・今年度の役割分担 ・今年度の予定 ・研修会について ・コラムについて

### ◆ 平成22年度 高次脳機能障害委員会

《第1回》

日時：2010年5月9日(日) 13時00分～15時00分 出席者：小嶋、檜本、鈴木勉、佐藤、定司、石橋、竜崎、鈴木直哉、大内(以上9名)

・H22年度の活動計画 ・H22年度委員へのオリエンテーション

### ◆ 平成22年度 介護保険委員会

《第1回》

日時：2010年6月8日(火) 19時30分～20時45分 出席者：安島、藤倉、勝又、平澤(以上4名)

・今年度の活動計画についての確認 ・委員について ・委員の紹介 ・役割分担 ・介護保険委員会の年間スケジュールの確認 ・第一回勉強会について

### ◆ 平成22年度 リハビリテーション公開講座作業部会

《第5回》

日時：2010年5月24日（土） 19時00分～20時30分 出席者：高橋（以上PT士会委員1名）、坂田、蛭田、金子（以上OT士会委員3名）、斎藤、神作（以上ST士会委員2名）

・議事録確認 ・ポスターについて ・来年度、第5回実施について

◆ 平成22年度 生涯学習プログラム基礎講座・専門講座作業部会

《第1回》

日時：2010年6月13日（日） 10時00分～12時00分 出席者：塘、岡松、西脇、宇治、太良木、渡辺、齊藤（以上7名）

・平成22年度講座開催進行状況 ・作業部会の役割分担 ・申し込み案内について

（紙面の都合上、報告事項と協議事項はまとめて記載しています。）



☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆

編集員のつぶやき

連日、サッカーワールドカップでの日本代表の活躍がテレビで報道され、代表選手達のチーム力の高さや団結力の強さが評価されています。そして、実はこのチーム力の高さは元からあったものではなく、ワールドカップ前の練習試合で4連敗をした後、選手だけのミーティングを開き、怒鳴りあい、喧嘩になりかけながらも、熱くそれぞれの思いを出し合ったことで形成されたのだそうです。ある解説者が、「プロになると自然とプライドが高まり、お互いがお互いを干渉し合わなくなる。そのため、不自然な壁ができ、チームワークが形成しにくくなる。」と話しておりました。

昨今、私たちの職域にも、チーム医療や連携が求められてきております。私たちの「連携」も、仲良しこよしだけで形成されるものではありません。それぞれの立場から患者さんや家族のことを思い、その考えを仲間に提案する。そして意見の食い違いがあったとしても、とことん議論し最も良い形を生み出していける関係を作ることが重要なのでしょうか。みなさんも、もう一度、自分の職場を省みてみませんか。



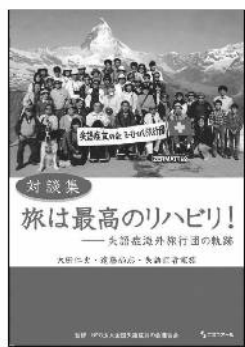
楽しみながらコミュニケーション力をつける

## ことばのゲーム集

失語症のグループワークを実践する言語聴覚士が考えた

編・著 地域ST連絡会 A4判 マニュアル編146頁 教材編フルカラー156頁  
CD-ROM付 化粧箱入 2,940円(税込)

全国の言語聴覚士が実際に訓練で使用しているゲーム130種類収録の  
大ボリューム！失語症の方の訓練はもちろん、最近物忘れが多くなっ  
た方への訓練にも最適です。



## 対談集 旅は最高のリハビリ！

失語症海外旅行団の軌跡

監修 NPO法人全国失語症友の会連合会 著 大田仁史、遠藤尚志、失語症者家族  
A5判 222頁 1,575円(税込)

旅行先の思い出・各国の失語症者との交流をつづった失語症海外旅行団の軌跡。  
対談集待望の第2弾発行！

対談集第1弾「失語症」と言われたあなたへ 好評発売中！



## がんばれリハビリくん 病院編

著 飯島要一 A5判 128頁 1,260円(税込)

でも負けない！  
辛くて大変な訓練も楽しいリハビリに変える4コマ漫画登場！

突然の脳内出血で、身体の一部を奪われたリハビリくん。理学療法、作業療法、  
言語療法等の訓練の日常を、お茶日に描いた爆笑4コマ漫画です。先生や患者  
さん達と繰り広げる多くの場面から、患者さんご家族に頑張る勇気と元気を  
届けます。病院の待合室・図書コーナーなどにもおすすめの1冊です。

## DVD 目で見える日本語音の産生

エレクトロパラグラフィ(EPG)を用いて

監修・解説 山本一郎、藤原百合  
製作・著作 EPG研究会  
再生時間 約43分 3,500円(税込)



「さかな」を「たかな」と間違って発音し  
ている場合……「さ」と「た」の構音器官  
の動きの違いはどうなっているのか？  
このDVDはその違いをわかりやすく  
視覚化しました。

## 透明文字盤

企画：山本智子(狭山神経内科病院)  
A3判 945円(税込)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
あ	か	さ	た	な	は	ま	や	ら	わ
い	き	し	ち	に	ひ	み	。り	ー	
う	く	ず	つ	ぬ	ふ	む	ゆる	を	
え	け	せ	て	ね	へ	め	。れ	◎	
お	こ	そ	と	の	ほ	も	よ	ろ	ん

ALS等で身体の動きが制  
限されている方とのコミ  
ュニケーションに！目の  
動きを見ながら文字を読  
み取る透明な板です。飲  
料容器に使われているP  
ET樹脂製です。

●その他の製品情報につきましてはホームページへ。

エスコアール

検索



株式会社 エスコアール

〒292-0825 千葉県木更津市畑沢2-36-3 TEL 0438-30-3090 FAX 0438-30-3091  
エスコアールホームページ <http://escor.co.jp>

# Hello

在宅  
通信販売

かむことや飲み込むことが、困難な方や  
たんばく質などを制限されている方へ  
ご一報ください。

(株)富士食品 千葉県君津市坂田272

TEL:0439-52-2421

FAX:0439-53-0758

## リオネット補聴器

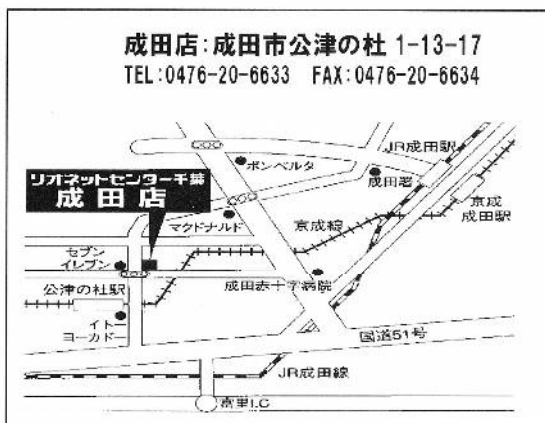
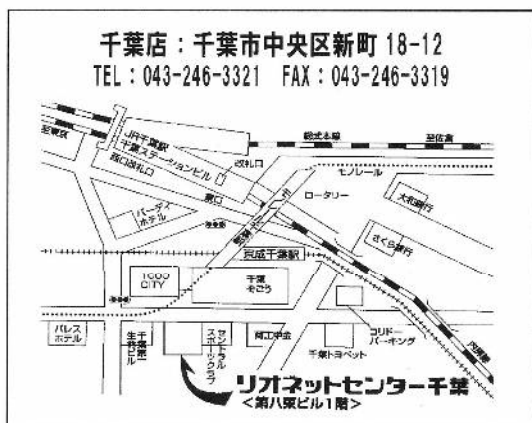
補聴器のご相談は安心できる

## 認定補聴器専門店で!!

認定補聴器専門店は「認定補聴器技能者」が在籍し、補聴器をお客様の耳に合わせるための設備機器が整い「補聴器の適正供給」の運用がされ、「財団法人テクノエイド協会」が認定したお店です。つまり経験豊かで専門的な知識と技能を持ったスタッフが、様々な機器を使い、一人ひとりのお客様の聞こえの状態に合った最適な補聴器をご提供します。

## 認定補聴器専門店

## リオネットセンター 千葉



口臭防止

# マウスピュア

有効成分〈グリチルリチン酸二カリウム〉配合  
 湿潤剤〈ヒアルロン酸Na〉〈濃グリセリン〉配合

口腔環境づくりをサポート  
 口臭防止・歯肉炎・歯周炎の予防に！  
 湿潤剤〈ヒアルロン酸Na〉〈濃グリセリン〉配合で  
 お口が乾燥しがちな方にオススメです！




医薬部外品  
薬用ハミガキ





内容量 40g

種類	希望小売価格
40g	1,470円(税込)

**川本産業株式会社**

※ 製品改良のため、仕様の一部が予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

本社/大阪市中央区糸屋町2丁目4番1号  
 ● お客様相談窓口 06-6943-8956  
 ● 商品に関するお問い合わせは……マーケティング本部 06-6943-8941  
<http://www.kawamoto-sangyo.co.jp>

発行所:千葉県言語聴覚士会

発行人:吉田浩滋

編集人:編集部 古川大輔

事務局:〒263-0023 千葉市稲毛区緑町2-1-9 103号室

TEL/FAX 043-243-2524

E-mail chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ:<http://chibakenshikai.moo.jp/> 会員専用パスワード:affordance

印刷:社会福祉法人 大成会 成田市のぞみの園